

会 議 記 録

会 議 名 称	第7回社会教育委員の会議
日 時	平成29年3月29日（水）午後5時38分～午後7時32分
場 所	東棟6階 教育委員会室
出 席 者	委員/山口、藤川、天野、朝枝、小出、岩崎、多田、笹井 区側/生涯学習スポーツ担当部長、生涯学習推進課長、スポーツ振興課長、中央図書館次長、庶務課計画担当係長、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、社会教育センター主査、管理係主査、管理係主事
配 付 資 料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第5回社会教委員の会議 会議録（案） 2 「杉並区教育ビジョン2012推進計画（平成29～31年度）」案について 3 社会教育関係団体に対する補助金の交付について（案） 4 第2回すぎなみサイエンスフェスタ（報告） 5 今後の生涯学習にかかる事業の展開に向けて －第14期杉並区社会教育委員の会議まとめ（案）－ <p><参考資料>（委員のみ配付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 すぎなみ教育報No.224 2 青少年委員だより第68号 3 杉並文学館 4 杉並の路線バス 5 とうきょうの地域教育No.127
会 議 次 第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録の確認について 2 杉並区教育ビジョン2012推進計画改定について 3 社会教育関係団体補助金交付手続きについて <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第2回すぎなみサイエンスフェスタについて 2 今後の生涯学習事業の展開に向けて －第14期杉並区社会教育委員の会議意見まとめ（案）について <p>III その他</p> <p>○次回日程について</p>

(意見要旨)

- 議長 こんにちは。それでは開会に当たり、部長からご挨拶をいただく。
(生涯学習スポーツ担当部長 挨拶)
- 議長 では、資料の確認をお願いします。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 議長 説明について何か質問は。
(なし)
- 議長 続いて、杉並区教育ビジョン2012推進計画改定について。
- 庶務課計画担当係長 杉並区では、教育ビジョン2012の目標実現に向け、教育ビジョン2012の推進計画を策定し、その推進に努めてきた。このたびオリンピック・パラリンピック教育や新学習指導要領への対応といった新たな課題への取組、また昨年11月に改定された杉並区実行計画等との整合を図るなど、時代の変化を踏まえて、杉並区教育ビジョン2012推進計画を改定することにした。
- 計画期間は平成29年度から31年の3カ年で、推進計画に掲げる七つの目標はそのまま掲げて、具体的な取組内容等、整理、追加等をした。実行計画との整合も考慮し、取組項目を整理、追加等々している。ご意見等をお寄せいただきたい。
- 議長 今のことで、ご質問等いかがか。
(なし)
- 議長 では社会教育関係団体補助金交付手続きについて。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 議長 ありがとうございます。説明について質問はあるか。
(なし)
- 議長 ではすぎなみサイエンスフェスタについて、お願いしたい。
- 社会教育センター主査 第2回すぎなみサイエンスフェスタを、3月5日日曜日の午後の時間帯に開催した。社会教育委員の皆様にもお越しいただき、ありがとうございます。
- 昨年度よりブース数もふえ、26ブースとなった。来場者も268名増で、2,286名だった。アンケートの回答では「楽しかった、おもしろかった」、「継続して開催してほしい」とか「待ち時間が長いので、一回あたりの時間を短くしたり、一度に参加できる人数を増やしてほしい」というご希望もいただいた。キャパシティーに限りがあり、参加できる人数が少なかったり、1回当たりのワークショップの時間が60分といった長丁場のものもあり、もっと人が流れて体験できるものがあるといいという声もある。
- また、2,000人を超える方々が当日セッションの中にあふれるような状態になったため、会場が暑かった、混み合っただけで道が通りにくかったといった状況も残念ながら起こっていた。
- 3月17日に実行委員会を開き、こういった状況の振り返りを行った。団体からは、ブースの内容の見直しが必要といった声が上がった。昨年度、事前配布の整理券を独占したにもかかわらず、予約時間になってもそのブースに現れなかった方がいらして、やりたい子供たちが来ているにもかかわらず体験してもらえなくなったケースが起こった。このため、整理券の独占をなく

し、ポイントを集める仕組みを取り入れたが、その効果を少し考えた方がいいという声も上がった。

- 議長 ありがとうございます。ご感想とか何かお気づきの点は。
 - 委員 前回から参加しているが昨年よりもとても意義深く感じた。セシオン杉並に近い学校なので、月曜の朝会でもサイエンスフェスタの話をしたが、たくさんの児童が行ったとのことであった。広報が有効に周知され、魅力あるイベントであることがよくわかったことがある。小学校の先生有志でも参加したが、様子を見に行くだけでなく、自分たちも参画したいという気持ちになったとのことなので、ぜひ、実現できるといいと思う。
 - 議長 ありがとうございます。
 - 委員 去年に引き続き参加したが、3階は人があふれ返っていた。整理券をとるために、親御さんがお子さんを放置して並んでいるのを見て心配になった。子供がいつ迷子になってもおかしくないかと不安に思った。
 - 議長 ありがとうございます。今のご意見も参考にさせていただければ、来年は更にいいものになると思う。では、「今後の生涯学習事業の展開に向けて」に移りたい。今期の杉並区社会教育委員の会議の意見のまとめ（案）についての説明を。
 - 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 「はじめに」という部分と、章立ての中では、出前型・ネットワーク型の検討経過というタイトルで流れを整理した。科学館がなくなり、科学教育事業は違う形で新たな展開をしていくことがスタートになり、出前型・ネットワーク型がどのように検討されていたのかを整理した。1番の「社会教育活動の拠点の変遷をもとに」は、前回、副議長から時代に枠組みを持たせることで、わかりやすくなるのではないかとご指摘いただき、25年前後での区切りをもとに整理した。2番の社会教育事業の実施概況も、建物の話から始めて、それが拠点だという話の流れになると、建物の話をしているように読み込まれてしまうということがあるので、根底にある社会教育の事業の展開があつてのことということ踏まえてもらうべきだと指摘だった。社会教育センターが行っている事業でたくさんの事例を載せることは難しいため、大人塾の事業の始まりと展開がどのようになっていたのかということ柱に据えて事例紹介とした。建物が評価されたのではなく、活動が評価されて今に至っているという読まれ方にしたいのが大枠で、その活動の実績として、文部科学省からも表彰をいただいこともまとめた。3番の新たな科学教育の事業の展開は、表を載せ出前型・ネットワーク型の展開をわかりやすくした。プラネタリウムを初めとして、人が集まる場所で、出かけて行って展開するやり方は、好評を得て、新たな変化を生み出すことにもつながったという事象も伺った。団体の活動が、別の場所で行うフェスタのミニ版につながったり、学校の土曜日の取り組みにも生かされたり、大学生がサイエンス縁日をセシオンで行うことにもつながっている。科学の分野に限った話ではなく、そこに主体者となる人々がみずから主人公になって活動していく場面でもあり、社会教育の振興にもつながっていることが言えるのではなかろうかとのまとめになっている。
- 「生涯学習推進のための課題」では、社会教育というものが展開していく地域のフィールド、人々の暮らし方、あるいはその地域の置かれている状況が変化し、人がばらばらになっていく中にありながらも、地域課題に人々の参加が必要という矛盾を抱えた社会になってくる。そこで学びの機会を設定す

ることは、相当工夫が必要だという指摘にした。例えば大人塾の事業の中でも地域へ出ていくことが発想として既に取り入れられているが、社会教育事業も将来像として、より充実した社会の描き方によっては、展開の仕方も変わっていくであろうという整理をした。科学のみではなくいろんなものに波及しようとする、どうしてもそれに必要な準備室が必要だが、セシオン杉並に充実させるためのスペースがあるかという、非常に難しい。そこで、ちょうど区が進めている施設再編の中の新たな空間も充実に充てていくのが、生涯学習の充実にとっても意味があるだろうと。更に「今後の展望」では、施設再編整備計画の第1次プランの改定が行われ、杉並第四小学校のスペースを活用して、生涯学習の充実を含めて今後検討していくということが書かれ、そこで社会教育や生涯学習の出前型の充実のために使っていくことを含んで検討し、セシオン杉並以外の場所と合わせて社会教育全体を盛り上げていくという発想がとれないかという展望を書いた。例えばニーズの把握、実施する事業内容の計画を中小規模で設定していきながら事業を展開することもできるようになれば、セシオン杉並に集めて事業をすることは必要なく、そういったことのために拠点を今後その杉四小の検討の中で描ければというまとめになっている。

- 議長 ありがとうございます。今のことでご意見をいただきたい。
 - 委員 「今後の展望」の「社会教育主事等の専門職を含め社会教育事業の展開にあてる」は済美教育センターに理科指導員がいるということだが、科学館にいた科学に特化した専門職の方々はどうなったのか。
 - 生涯学習推進課長 希望して残った職員は済美教育センターへ移っている。
 - 議長 事業という形式は、社会教育やスポーツや文化で比較的好くとられる。学校教育では、基本的にあまり事業という言葉を使わないが、それは、カリキュラムの作成や先生が研修会に出席することそのものが公共的な課題だという位置づけになっているからで、だからそこに公費が投入されている。それに比べて社会教育や生涯学習の活動の場合、無限大にある中では、事業化によってこそ目に見えるようになる。事業となれば、形をつくるものになって予算も定員も人もつけられ、目に見えるものとして区民に提供できるのだと思う。税金を使って事業をやる場合、公共性や社会性があり区民にそれを還元する意味があるという理屈がないとできないと思う。
- 科学教育は、手間暇がかかり、施設、設備も結構重要なウエートを占め、ネットワーク型あるいは出前型にしないとアクセスできない人が出てくるので、それをつくることによって、科学教育の持つ意味を一般の区民にも提供できるようになる。一方、社会教育は本来自由であり、自由だからこそ拠点整備で自由な空間を整備するという意味で進んできたと思うのだが、そこで事業をやる意味というのは、科学教育とは少し違うと思う。なぜなら、科学には真理があり、その真理をわかりやすく説明し、身につけることによって、一般の区民も社会現象が理解しやすくなる。しかし、社会教育の取り組みに言う生活課題というのは、真理ではない。だから、社会教育、生涯学習事業は事業として、科学教育と並べることができないのではないかなと思う。
- 委員 例えば地域には、町会・自治会の問題や後継者がいないなど高齢化する中で、地縁型のコミュニティに問題点があり、そこに新しい子育てグループや社会福祉できずなサロンができ、融合してコミュのニティをつくるのが社会教育の役割だと思う。出前型・ネットワーク型の展開を科学教育に

類推して、他にはできない社会教育ができるのではないか。

- 委員 私は、公民館的な、自分たちの問題を持ち寄って話せる場が近くにできるという意味でネットワーク型だというふうに捉えていた。だから、「今後の展望」で「中小規模のエリアによる実態把握・機会の設定」に興味がある。ネットワーク型は大事であるが、把握をしつつ、見つけた学びの展開はどうしていくのか。そこがキーになるように思う。
- 委員 そこに行ったら解決できることにはならなくても、こういうネットワークがあって、つながって見たらどうかなど、場を教えてもらえるネットワーク型というものを、もしかしたら区民は求めているのかと感じた。
- 議長 事務局の皆さんもなにか意見をどうぞ。
- スポーツ振興課長 スポーツの分野では、スポーツ推進委員による出前型をはじめている。施設としての体育館で待っているだけでなく、地域の拠点に出向くことからではなく、身近なところに目を向け、そこから裾野を広げることをやり始め、それによりスポーツをする人が増えていることがある。事業でやっているからではなく、健康的で文化的に生きていくために必要ながスポーツだとインフォメーションしている。
- 委員 社会教育も気軽に参加して人とつながるといいのがあればいい。
- 委員 マラソン部があり、阿佐ヶ谷駅前に何時集合と100人ぐらいのLINEで知らせ、10人ぐらいが集まって1時間ほど善福寺川周辺を走って帰っていく。行っても行かなくても良く、自由な場と参加する意思があればいいような取り組みができれば良い。やらなければならないなど義務のような形になってしまうと、提供される方も無理やり嫌々やるような形になる。やはり行動変容するには、自分からやりたいと思わない限りは、納得しないだろうし意欲もわからない。
- 生涯学習スポーツ担当部長 前回から引き続き案を出し、いろんな切り口でご意見をいただいた。科学館の廃止から科学教育は出前をはじめ、その出前の拠点を社会教育センターでやっているが、そこだけでは手いっぱいになり、高円寺地域の新たな学校づくりの中で杉並第四小学校が統合される予定で、その跡地を使って、出前型・ネットワーク型の社会教育をさらに展開していこうと考えていければ思っている。もちろん、地域の方々からのご理解をいただくことなど、まだまだハードルはあるものの、拠点づくりを含めて、出前型・ネットワーク型の一層の拡充を考え、その第一歩としてご議論をいただいている。場所を定めて呼び込むのは、難しい時代になっていくと思うが、学校や図書館、区民センターを使ったり、地域に出て行って、もっと身近なところで区民に対して学んでいただくことができないか、議論をさらに詰めていきたい。次回修正したものを提出することになるが、それがまた次の期につながって、次の期でもご議論いただきたいと思う。
- 議長 ありがとうございます。出前で拡張し、外に出ていくということは、外からのいろんな情報も入ってくる。そういう両方の機能を持つ拠点になるだろうと思う。それでは、最後、課長から一言お願いします。
(生涯学習推進課長 あいさつ)
- 議長 これで閉会します。ありがとうございました。